

鹿児島県における小学校「特別の教科 道徳」の教材分析：鹿児島県小学校教育研究会道徳部会における「資料の類型化」の実証研究を中心として

著者	池田 俊彦, 久保田 治助
雑誌名	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要
巻	29
ページ	134-143
発行年	2020
URL	http://hdl.handle.net/10232/00030944

鹿児島県における小学校「特別の教科 道徳」の教材分析 -鹿児島県小学校教育研究会道徳部会における「資料の類型化」の実証研究 を中心として-

池田俊彦 [出水市立西出水小学校]

久保田治助 [鹿児島大学教育学系(地域社会教育)]

Teaching materials analysis of Moral Education provided in Kagoshima Elementary Schools: An empirical study of “classification of materials” by the Moral Education Subcommittee for Kagoshima Elementary Schools

IKEDA Toshihiko and KUBOTA Harusuke

キーワード：特別の教科道徳、教材分析、道徳教育、教授法、鹿児島県小学校教育研究会道徳部会

1. はじめに

本研究は、「特別の教科 道徳」における教科書教材の分析の手法を探ることが目的である。教科化以前にも道徳の時間で使用される資料の分析は様々な視点から研究されてきた。本県においても、鹿児島県小学校教育研究会道徳部会が主導した「資料の類型化」が、授業づくりに多く取り入れられてきた。本稿では、この「資料の類型化」の手法を改めて整理し、道徳が教科となり、検定教科書を使用することとなった教材分析においても有用なものであるかを検証する。

2015年3月に、学校教育法施行規則及び小・中学校の学習指導要領の改正が行われ、従来の「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」という）として新たに位置づけられた。

これによって、道徳の授業の教材は、資料として使用されてきた副読本から検定教科書が使用されることとなった。つまり、従来、道徳の授業で活用する資料は、副読本に限ることなく学校の裁量に委ねられていたが、教科用図書となった「道徳科」においては、教科書のみを使用するのではないにしても、従来の副読本の扱い以上に中心教材として、相当程度この活用が義務づけられたことになる。このことについて、平成26年10月21日中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」では、以下のように述べている。

道徳教育の充実を図るためには、充実した教材が不可欠であり、「特別の教科 道徳」の特性を踏まえ、教材として具備すべき要件に留意しつつ、民間発行者の創意工夫を生かすとともに、バランスのとれた多様な教科書を認めるという基本的な観点に立ち、中心となる教材として、検定教科書を導入することが適当であること。(筆者傍線)

このことは、道徳科の授業づくりにおいて発想の転換を促すものになる。教科化以前に道徳の授業を構想する際の典型は、まず児童の実態ありきであった。児童の実態を踏まえて、授業の目標が設定される。その目標を達成するために適切な資料を探す、そしてその資料を授業に投入する、という手順である。(図1参照) 資料は目標を達成するための道具という考え方であった¹⁾。一方、「道徳科」においては、まず教科書教材の活用が求められるわけであるから、教材ありきである。授業を構想するに当たっては教材分析が優先する。そして、それぞれの教材の特徴に対しての児童の実態を踏まえた指導が求められることになる。地域教材など教科書以外から中心教材を使用することがあるにしても、年間を通しては教科書教材を主に使用することになるわけであり、教材分析から授業を構想していくという考え方への転換が必要である²⁾。

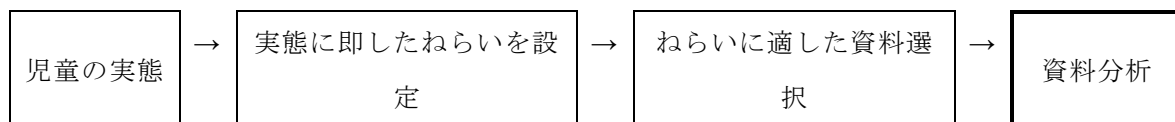
2. 道徳科以前の副読本資料と道徳科以後の教科書教材の活用の比較

資料選択が学校や授業者に委ねられていた道徳科以前の副読本使用と、教科書使用が義務づけられた道徳科以後の教科書教材使用の状況を、県内の2小学校の年間指導計画で比較した。道徳科以前は平成28年度、道徳科以後は30年度で比較した。(表1参照)

A校、B校ともに、教科化以前である平成28年度の副読本の使用率に比較して、教科化以後の教科書教材の使用率が大きく増えている。このことから、教材研究における資料選択の過程が減り、教材分析の比重が大きくなっていると考えられる。

図1：道徳科の授業構想の手順の変遷

○道徳科以前の一般的な授業構想の手順



○道徳科の授業構想の手順

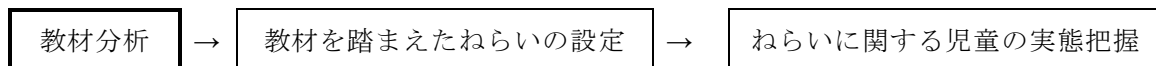


表1：副読本資料と教科書教材の使用率

A校：鹿児島市立小学校、児童数 640 人

B校：出水市立小学校、児童数 650 人

	A校	B校
平成28年度副読本の資料使用率	56%	75%
平成30年度教科書教材の使用率	87%	91%

注：1～6年生の年間指導計画 209 時間（1年 34 時間、2～6年 35 時間）における使用率

3. 鹿児島県小学校教育研究会道徳部会の組織、事業概要

(1) 組織 組織については、以下の会則の通りである。(表2参照)

(2) 事業概要

例年、夏季研修会、研究大会、研究誌「道徳の教育」発行を主たる事業としている。

○ 夏季研修会

県内11地区持ち回り開催、実践発表、研究協議
平成30年度 奄美文化センターに於いて、参加者61名

○ 研究大会

県内11地区持ち回り開催、研究授業、授業研究会、講演会
平成30年度 志布志市立通山小学校に於いて、参加者130名

○ 研究誌「道徳の教育」

特集、特別寄稿、実践例、各地区の活動状況
平成30年度 販売実績670冊

(3) 過年度の歩み

現存資料で確認できる、研究誌「道徳の教育」の巻頭寄稿及び研究大会のテーマを列挙して、過年度の歩みとする。なお、1982(S56)年以前および表中の空欄は、今回の調査で確認できなかったところである。(表3参照)

表2：鹿児島県小学校教育研究会道徳部会会則

第1条（発足・名称）この会は昭和39年3月1日設立され、名称を鹿児島県小学校教育研究会道徳部会という。
第2条（事務局）この会の事務局は、会長の定めるところにより鹿児島市立田上小学校（鹿児島市田上五丁目12番1号）におくものとする。
第3条（目的）この会は、県下の小学校における道徳教育研究の情報の交換などによって、道徳教育の推進と充実を図ることを目的とする。
第4条（事業）この会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。 (1) 道徳教育についての研究と調査 (2) 研究会、講演会等の開催 (3) 会報、研究誌の発行 (4) 地区及び地区研究団体の研究活動についての奨励・助成 (5) 研究資料の交換 (6) そのほか必要と認める事業
第5条（組織）この会は道徳教育の研究を志す県内小学校の教師・関係者をもって組織する。
第6条（役員）この会に次の役員をおく。 (1)会長（1名） (2)副会長（2名） (3)地区理事（各1名） (4)事務局長（1名） (5)各部長（5名） (6)監事（1名） (7)地区長（各1名） (8)顧問（若干名）

表3：研究誌「道徳の教育」の巻頭寄稿及び研究大会のテーマ

年度	研究誌「道徳の教育」巻頭寄稿 著者（執筆時職）	研究大会テーマ 会場
1982(S57)	現代道徳教育改善の問題点 杉谷雅文（親和女子大学教授）	道徳教育の全体計画と指導計画の改善 川辺町立川辺小学校
1983(S58)		

1984(S59)	現代社会における道徳教育の意義 佐藤俊夫(信州大学教授) 「追体験による理解」重視の方法原理の確立を 平野武夫(京都大学名誉教授)	児童の実態をふまえた道徳の指導はどのように すればよいか 穎娃町立別府小学校
1985(S60)		
1986(S61)		
1987(S62)	これからの道徳教育－学習指導要領の改訂の 方向－ 村田昇(滋賀大学教授)	価値を主体的に自覚させるための工夫 －指導過程における発問－ 大口市立牛尾小学校
1988(S63)	子どもの意欲を高め、価値の自覚を促す道徳授業 のために 永田繁雄(東京学芸大附属小教諭)	人間性豊かな子供を育てるために道徳指導の研 究－道徳的心情を深める指導を通して－ 加治木町立柁城小学校
1989(H1)		
1990(H2)	教育課程の改訂と「道徳の時間の指導の在り方」 瀬戸真(島根大学教授)	[九州地区研究大会鹿児島大会テーマ] 人間としてのよりよい生き方を求める道徳教育 －子供一人一人を見つめ、生かし高める道徳の 授業をめざして－ 鹿児島市立名山小、八幡小
1991(H3)	人間としてのよりよい生き方を求める道徳教育 －子供一人一人を見つめ生かし高める道徳の授 業－ 大木美代子(目黒区立月光原小校長)	児童自ら思いやりの心を持ち、よりよく生きる 力を育てる道徳指導－道徳的实践力を高める 指導を通して－ 桜島町立桜洲小学校
1992(H4)	道徳授業の多様な展開を求めて 村田昇(京都女子大学教授) 城山の麓から 山口勲(鹿児島県教育委員会指導主事)	鹿屋市立高須小学校
1993(H5)		大島地区
1994(H6)	巻頭寄稿なし	豊かな心を持ち、進んで実践する子どもの育成 を目指す道徳教育－思いやりの心を持ち、自 ら進んで実践する松山っ子－ 知覧町立松山小学校
1995(H7)	道徳教育に思うこと 和田幸一郎(鹿児島県教育庁指導主事)	豊かな心を持ち、自ら進んで実践する子供を育 てる道徳教育－道徳的实践につながる場の工 夫－ 松元町立石谷小学校
1996(H8)	道徳教育38年の歩み 川口哲郎(国分市立国分西小校長)	開催なし
1997(H9)	道徳授業の基底 川口哲郎(鹿児島市立錦江台小校長) 道徳教育の理念を探る 長野進(鹿児島県総合教育センター研究主事)	よりよく生きる力を育てる道徳教育の創造 －子どもがより主体的に活動する道徳授業の在 り方－ 指宿市立柳田小学校
1998(H10)	豊かな心をはぐくむ道徳教育の創造をめざして 肥後秀昭(鹿児島県教育庁指導主事)	子供一人一人がお互いのよさを学び合い、自己 存在感を実感できる道徳教育の研究 宮之城町立盈進小学校
1999(H11)	重要視された道徳教育 阿久根修二(肝属教育事務所指導主事)	[九州地区研究大会鹿児島大会テーマ] よりよく生きるよさの実感を深め、生きる力を 高める道徳教育の創造 鹿児島市立松原小、武小
2000(H12)	巻頭寄稿なし	総合単元的な道徳学習の実践 阿久根市立阿久根小学校
2001(H13)	変わること、変わらぬこと、変えてはいけないこ と 日高孝(大口市教育委員会指導主事)	豊かな心を持ち、ともによりよく生きる力を育 む道徳教育のあり方－総合単元的な道徳学習 の展開を通して－ 菱刈町立本城小学校
2002(H14)	道徳教育の一層の充実振興を願って 福富則義(鹿児島市立広木小学校校長)	始良町立建昌小学校
2003(H15)	道徳教育と教師 神田之弘(垂水市立協和小学校教頭)	豊かな人間性を育み、道徳的实践力を高める指 導法の工夫－道徳の時間を要とする総合単元 的な道徳学習を通して－ 有明町立山重小学校
2004(H16)	道徳教育に携わって 長野進(肝属教育事務所指導主事)	豊かな人間性をはぐくむための道徳学習はどう あればよいか－道徳的心情を道徳的实践へと

池田・久保田：鹿児島県における小学校「特別の教科 道徳」の教材分析

		高める指導の在り方 桜島町立桜洲小学校
2005(H17)	教師に求める道徳心 池田俊彦（霧島市教育委員会指導主事）	道徳教育における家庭・地域との連携 垂水市立協和小学校
2006(H18)		
2007(H19)	問題解決的な道徳学習はこうして生まれた 末廣純一（鹿児島市立武岡小学校校長）	〔九州地区研究大会鹿児島大会テーマ〕 思いやりの心を磨き、輝いて生きる子供の姿を 求めて ―子どもの多様な価値観を生かし、深 め広げる道徳学習の創造― 鹿児島市立紫原小学校
2008(H20)	道徳教育をマクロとミクロの視点から考える 東浩一（鹿児島県総合教育センター研究主事）	南さつま市立益山小学校
2009(H21)	道徳教育の研究から得たもの 濱崎忠雄（霧島市教育委員会指導主事）	豊かな心を育てる道徳教育の創造 ―心に響く 道徳の時間の充実を目指して― 西之表市立下西小学校
2010(H22)	今日の世相と道徳教育 山下守（南薩教育事務所指導課長）	豊かなかかわりを通して、よりよく生きる力を 高める道徳教育の創造 ―自分のよさに気付き 高めようとする道徳授業の在り方― 指宿市立柳田小学校
2011(H23)	道徳教育は子どもたちの未来への最大のプレゼ ント ―人格を育てずして学校教育にあらず― 押谷由夫（昭和女子大学大学院教授） 道徳教育の可能性を考える 福田浩一（奄美市立住用小学校教頭）	豊かな心を育み、道徳的実践力を高める道徳教 育の創造 ―道徳の授業の充実と実践化への手 立て― いちき串木野市立市来小学校
2012(H24)	道徳教育への思い 石塚勝郎（鹿児島県教育カウンセラー協会代表） 「道徳」を研究する 湊浩一（日置市立伊集院小学校教諭）	よりよく生きるよさの実感を深める道徳授業の 在り方 ―道徳の時間における指導内容の重点 化と言語活動の充実を通して― 薩摩川内市立川内小学校
2013(H25)	道徳教育の充実について ―道徳教育の改善の 方向― 中熊義尚（学校法人池田学園池田小学校校長） 道徳教育に感謝の気持ちを込めて 橋口俊一（独立行政法人教員研修センター）	よりよく生きるよさの実感を深める道徳授業の 在り方 ―生命尊重の内容項目における体験活 動との関連と言語活動の充実を通して― 出水市立西出水小学校
2014(H26)	若い道徳の先生のがんばりに期待するもの ―中心発問・ゆさぶり発問のちょっとした工夫― 阿久根修二（鹿児島国際大学附属鹿児島幼稚園長） 今、道徳教育の不易と流行について考える ―「教科化」に向けた道徳教育改善の方向から― 河路勇策（喜界町立喜界小学校教頭）	豊かなかかわりを通して、道徳的価値の自覚を 深め、自己の生き方についての考えを深める子 どもの育成 伊佐市立大口東小学校
2015(H27)	教師一年目 道徳の授業づくりをどう進めるか ―フレッシュ研修一年目で何を学ぶか― 新保修身（始良市立西始良小学校指導教員） 道徳科の学びを創造しよう！ ―「考え・議論す る道徳」の実現に向けて“7つのポイント”― 永里智広（南さつま市教育委員会指導主事）	〔九州地区研究大会鹿児島大会テーマ〕 道徳的価値を主体的に追究し、生き方について 考えを深める道徳授業を目指して ―「思いや り・親切」における指導内容の明確化と重点化 した指導の在り方― 鹿児島市立草牟田小学校
2016(H28)	来し方、行く末 日高孝（鹿児島国際大学実習支援課課長） 「特別の教科 道徳」の充実に向けて 堀田竜次（独立行政法人教員研修センター）	自己を見つめ、互いを認め、よりよい行動がで きる子どもの育成 ―対話活動を中心とした心 の教育の取組― 鹿屋市立西原小学校
2017(H29)	道徳科の実施に向けた授業改善と評価 赤堀博行（帝京大学大学院教授）	道徳的価値を主体的に追求し、実践につなげる 道徳学習の展開 ―多様な道徳的価値観を引き 出し、交流させる場の充実を通して― 始良市立錦江小学校
2018(H30)	特別の教科 道徳で求められていること 浅見哲也（文部科学省初等中等教育局教科調査官）	考え、議論する学び合いを通して、自己の生き 方について考えを深める道徳科学習の在り方 志布志市立通山小学校

4. 資料（教材）の類型化に関する先行研究

道徳の授業において、資料分析の重要性を指摘し、道徳資料を類型的に整理した先行研究はいくつかあり、特に、宮田丈夫（1964）の資料そのものの性質を類別したもの、青木孝頼（1995）の資料を活用類型に類別したものは、近年の授業研究等における議論の際、引用されてきたものであるため紹介する。さらに、吉田誠・木原一彰（2018）のねらいに基づく8類型は授業展開の類型化ではあるものの、教材分析を前提とする考え方であり参照したい。

(1) 宮田丈夫の資料類型論³

道徳的習慣、道徳的判断、道徳的知識・理解、道徳的心情といった道徳性の諸様相を視点に類型化するものであり、一つの資料は、以下の4つの型のいずれかに属するという考え方である。

- ①実践教材 道徳的習慣に訴える教材。
- ②葛藤教材 道徳的判断に訴える教材。
- ③知見教材 道徳的知識ないし理解に訴える教材。
- ④感動教材 道徳的心情に訴える教材。

授業者にとって、このような類型を理解することで、教材の効果的な取り扱いが明確になる。一方、この類型に関して、青木孝頼は例えば一つの資料が葛藤場面を含み、しかも感動性にも富んでいる場合が少なくないなどということから、どれか一つの類型に分類することは困難と指摘した。

(2) 青木孝頼の資料活用類型論⁴

資料そのものではなく、同じ一つの資料を、授業者がどのように活用するかという「活用の仕方」を視点とした分類である。原則的には、どの資料にも複数の活用方法があるという論である。

① 範例的活用

主人公の行為とその結果の関係を押さえることを通じて、子供たちに行為を範例として受け取らせたり、道徳的価値を理解させたりする意図で資料を活用する。

【典型的発問】「主人公はどんなことに気を付ければよかったか」「主人公はどんな点で立派だと思うか」

② 批判的活用

主人公の行為や考え方、感じ方を子供たちに批判させることを通じて、道徳的な考え方や感じ方を深めさせる意図で資料を活用する。

【典型的発問】「主人公のしたことをどう思うか」「主人公から学んだことは何か」

③ 共感的活用

主人公になりきらせて想像させることを通じて、子供一人一人の価値観に基づく心情や判断を語らせることを意図して資料を活用する。

【典型的発問】「主人公はどんなことを考えているだろうか」「迷っている主人公の気持ちはどのようなだろうか」

④ 感動的活用

感動的な資料の場合、その感動性を最大限に生かす意図で資料を活用する。

【典型的発問】「なぜそこに、自分は心を動かされたのだろうか」「このような気持ちを、今までにもったことはなかったか」

(3) 吉田誠・木原一彰の授業の 8 類型⁵

道徳授業のねらいを理想主義と現実主義、および行為主義と人格主義の 2 軸に整理し、そのねらいの持つ傾向によって 8 つに類型化するという手法である。授業を類型化するものであるが、教材分析を前提にして、どの類型で授業を構想するかを検討するという考え方であり、教材の類型化の参考となる。

①行為の理想追求型

理想的な行為のよさを理解させることにねらいを置く、理想的行為主義の授業。資料の登場人物に共感させながら、よい行為をすればよい心情になり、悪い行為をすれば悪い心情になることを理解させる、心情理解の道徳授業。

【典型的発問】「主人公が〇〇したとき、どんな気持ちになったでしょうか」

②価値の理想追求型

道徳的価値に対する知的理解を深めることにねらいを置く、理想主義の授業。資料に表現された道徳的価値を読み取らせて、それを手掛かりにその道徳的価値の内容について考えさせ、表現させる価値主義的授業。

【典型的発問】「本当の〇〇（道徳的価値）とは何でしょうか」

③生き方の理想追求型

資料の人物の理想的な生き方に含まれる道徳的価値の理解を深めることにねらいを置く、理想的人格主義の授業。

【典型的発問】「その偉人はなぜ〇〇したと思いますか」

④人格の向上追求型

人格の成長につながる習慣や生き方を身に付ける意欲を高めることにねらいを置く、人格主義の授業。

【典型的発問】「〇〇する習慣を身に付けたら（続けたら）、〇か月（年）後にはどんな生き方をしているでしょう」

⑤集団の成長追求型

集団の成長につながる習慣や生き方を身に付ける意欲を高めることにねらいを置く、現実的人格主義の授業。

【典型的発問】「〇〇（よくないこと）をしてしまうのはどんな時（状況）ですか。そのような時、どうすればよいでしょうか」

⑥状況適応追求型

現実生活の状況を適切に理解し、自他の行動の結果について現実的かつ多様な可能性を想定できるようにすることにねらいを置く、現実主義の授業。

【典型的発問】「〇〇をしたら、その後どうなるでしょうか」

⑦行為判断力追求型

道徳的問題状況において取りうる最善の行為を選びとる判断力を高めることにねらいを置く、現実的行為主義の授業。

【典型的発問】「〇〇をすると考えたのはなぜでしょうか」

「問題の最善の解決策は何でしょうか。なぜその解決策を選んだのでしょうか」

⑧行為スキル追求型

道徳的行為のシミュレーション的实践への共感に基づいて、望ましい行為に対する実践意欲を高めることにねらいを置く、行為主義の授業。

【典型的発問】「(ロールプレイをしてみて) どんな気持ちになりましたか」

5. 鹿児島県小学校教育研究会道徳部会における資料の類型化

鹿児島県小学校教育研究会道徳部会が整理した資料の類型化は、一単位時間における導入から展開、終末までの指導過程の整合性を保つことを意図したものである。導入におけるめあてと資料を

扱う展開段階での中心発問、終末段階での道徳的価値観の自覚化を促す発問を整合させることによって、授業を受ける子どもの意識の流れが円滑になるという考え方である。

資料を取り上げて説明する。「ふしぎな木のみ (学研・2年・努力)」という資料は、「おいしい木の実の種をもらった子ざるが、朝と夕方に水をやるという約束を果たさなかったために何も育たない。種をくれたおじいさんがやってきて「水かけを続けていれば、おいしい木の実がなっていたのになあ」といって立ち去る。子ざるはその後ろ姿をしょんぼりと見送る」というものである。

この資料を使う授業の導入で設定されるめあては、A「面倒なことを続けるにはどんな気持ちが大切だろう」とすべきか、B「面倒なことを続けられないことがあるのはどんな気持ちが足りないのだらう」とすべきなのか。資料を使った展開段階では、主人公は面倒なことが続けられなかったのであるから、「子ざるが続けられなかったのはどんな気持ちが足りなかったのか」としか発問しようがない。そうすれば、資料に整合させることに配慮して、導入段階でもBのめあてを設定しておくことが必要である。同様の考え方から、終末段階で自覚化を促す発問として「私たちが面倒なことを続けられないことがあるのは、どんな心構えが足りないのか」といった問い方をすることによって、導入から終末までの指導過程が整合することになる。

このように、資料の中における主人公が特性を踏まえた指導過程の整合性に配慮した授業の重要性は、本県の道徳教育の実践者が古くから提言してきたものであり、「道徳の教育」や各学校の研究誌でも資料分析に触れた研究が紹介されてきた⁶。それらを踏まえて、鹿児島県小学校教育研究会道徳部会事務局が6つの資料類型に整理し、諸研修会において紹介したものが、以下の類型である。

- 類型① 主人公が、弱い心乗り越えて、よりよい生き方を実践した資料
- 類型② 主人公が、よりよい生き方を選択できずに後悔する、または迷ったままの資料
- 類型③ 主人公が、気づいていなかった道徳的価値や過ちに気づく資料
- 類型④ 主人公が、最後まで過ちに気づかない資料
- 類型⑤ 主人公が、道徳的価値を理解し、実践している資料
- 類型⑥ 主人公が偉人等であり、高い道徳性で実践を続けている資料

このような分類は、授業の指導過程を計画するための参考とするためのものであり、導入の学習課題、資料の登場人物の心情等を追究する中心発問、終末における自分自身の道徳的価値観をまとめる発問との整合関係も、以下のように整理することができる。(表4参照)

6. まとめ

教科化以前は、資料分析の前に資料を選択するという作業が必要であった⁷。これは、児童の実態やねらいを達成するのに適した資料か否かを吟味する行為であるため、必然的に資料分析はスタートしていた。つまり、以前の資料分析には資料選択の目的もあったのだが、先行研究には資料選択の過程について詳しいものは見あたらなかった。本稿でも紹介したとおり、多くは、民間の副読本や文部科学省の資料をどのように授業に投入するかということに焦点が当てられている。鹿児島県小学校教育研究会道徳部会がまとめた「資料の類型化」も同様である。実は、このことが結果とし

て、教科となった道徳科の教材分析に貢献することになると考える。教科書教材が与えられている道徳科においては、資料選択という過程は必要なく、与えられた教材のよさや特徴を生かすための教材分析を行うことになるので、これまでに研究されてきた資料分析の手法は今後も十分に活用できると推測した。

本研究で確認したとおり、鹿児島県小学校教育研究会道徳部会の「資料の類型化」は、資料に登場する主人公の行為や心情がどのように変容するかを起点として、導入段階と終末段階と整合させ、授業を構想するという手法である。このような資料分析に基づく授業を行うことは、本県では定着しており、多くの学習指導案に「資料分析」の項を見ることができる。これまで以上に教科書教材を有効に活用することを思料しなければならない今後の道徳科においてこそ、教材の類型化は必要性が高くなるものと思われる。

なお、鹿児島県小学校教育研究会道徳部会の資料の類型化では6類型にまとめているが、本研究の過程で一つ一つの資料はそれぞれに個性があり、この類型に当てはめることが難しいものがあることも把握した。教材を捉えるための拠り所として十分活用できるものの、今後、実践をとおして改善が図られるべき課題であろう。

表4：教材の類型と発問

類型	【導入】学習課題 (道徳的価値観の課題)	【展開】中心発問 (登場人物の心情等)	【終末】自己を振り返る発問 (道徳的価値観のまとめ)
類型①	・・・な時に、・・・という行い ができるためには、どんな心で生活 すればよいだろうか。	主人公が、・・・の時、迷いな がらも、最後は・・・という行動 ができたのは、どんな心があった からか。	私たちが、・・・な時に、・・・ という行いができるためには、ど んな心構えで生活することが大切 だと考えるか。
類型②	・・・な時に、・・・できない(し てしまう)ことがあるのは、どんな 心が足りないのだろうか。	主人公が、・・・の時、・・・で きなかった(してしまった)のは、 どんな心が足りなかったからか。	私たちが、・・・な時に、・・・ できない(してしまう)ことがあ るのは、どんな心構えが足りない からか。
類型③	私たちが、・・・な過ちをしない ためには、どんなことを考えていれ ばよいか。	・・・という間違いに気付いた 主人公は、今どんなことを考えて いるか。	私たちが、・・・といった過ちを しないためには、どんな考えで生 活することが大切か。
類型④	私たちが、・・・な過ちを してしまうことがあるのはなぜか。	主人公は、なぜ自分の過ちに気 付かないでいるのか。	私たちが、・・・といった過ちを することがあるのは、どんな考え が足りないからか。
類型⑤	私たちが、・・・という生活を実 践していくためにはどんな心があ ればよいか。	主人公が、実践を続けているの はどんな心があるからか。	私たちに、どんな心があれ ば、・・・な実践を続けていくこ とができるか。
類型⑥	私たちが、自分の願いを 実現するためにはどんな心構えが大切か。	主人公が、・・・という願いを 実現することができたのは、どん な思いがあったからか。	主人公の生き方から、あなたは どんなことを学んだか。

注

- 1 瀬戸真（文部省初等中等教育局教科調査官）は『新道徳教育実践講座1 自己を見つめる』昭和61年9月16日初版において、「資料を選ぶことを通し、教師自身が子どもに、主体的な働きかけができる」（p.92）と述べている。
- 2 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』「道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもない」（p.103）、「授業で活用する教材は、教育基本法や学校教育法その他の法令はもとより、学習指導要領に準拠したものが求められる」（p.104）
- 3 宮田丈夫『道徳教材の類型と指導』明治図書、昭和39年。
- 4 青木孝頼『道徳授業の基本構想』1995年8月31日
- 5 吉田誠・木原一彰『道徳科初めての授業づくり ―ねらいの8類型による分析と探究―』大学教育出版、2018年。
- 6 鹿児島県小学校教育研究会道徳部会『道徳の教育2014』pp.83-89、鹿児島市立田上小学校『21世紀を拓く田上の教育課程研究Ⅲ』平成13年5月11日、pp.118-127。
- 7 道徳の教科化以前も、各学校の年間指導計画には資料が位置付けられていたため、実際の授業準備では、何もないところから資料を探すのではなく、年間指導計画に位置づけられた資料を活用するか、他の資料を活用するかを検討することから始められることが多かった。ここで言う資料選択とはそのような過程も含めて論述している。